

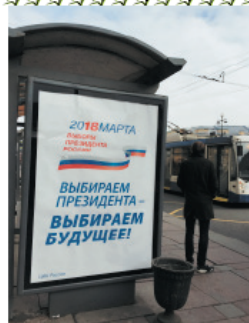
~~~~~  
<ペテルブルグ便り>

## ソ連って何？

大原 翔

2018年の3月18日は大統領選挙の日であった。サンクト・ペテルブルクの3月18日は天気も良く、春が来たとばかりにネフスキー通りは人通りがいつもより多かった。もっとも翌日は大雪となったのだが。写真のような投票を呼び掛ける看板は市内のあちこちに見られ、選挙当日は宣伝カーが音楽を流しながら投票を呼びかけていた。18年の3月18日と18はシャレであったのか、得意の18番であったのか。結果はご承知のとおりプーチン大統領の圧勝であった。筆者自身のスマホにも投票を呼びかけるメールが投票日前から何度となく着信していた。不在投票についての説明も事細かに書いてあった。もっとも、選挙権のない異邦人の筆者には当然関係がない話。どこの国においても個人情報には厳しい時節柄、事件や災害でもないのに、当方のメールアドレスが選挙管理委員会に知られているのかなど・・・小さなことにこだわってしまう。それはさておき、選挙での得票率をあげるのには、若者の票をあつめることが重要であったようだ。そして、それが功をそうしたようである。

先日、日露経済の大先輩から聞いた話である。「最近、ある若い人がロシアとの貿易について書いている文章を読んではたと気づかされたことがあった。『ロシアとの貿易は、年輩の方ばかりがやっている分野だと思いついていた。案外若い同年齢の方もやっており、同世代同士で話が合う・・・』と書いてあった。ロシアとの貿易は年輩ばかりがやっている」と若い



世代には思われていることに気が付かなかった。1960年代、自分自身が若いころ、ソ連との貿易は、大陸中国から帰ってこられたロシア通のベテランの方々の独壇場であったと思っていたころと似ている面もあるのかなど、昔を思い出した。」

サンクトペテルブルクで日本の留学生と時々話す機会がある。ほぼ年輩？の筆者のところにまで来てくれるのだから丁寧に対応したいと思っている。彼らは、2000年より少し前に生まれたソ連を知らない世代である。ソ連って何ですかと聞かれそうになる。社会主義、冷戦、レーニン・・・などへの関心は少なく、昔の若い人たちとはまったく違った切り口でロシアに入ってきている人が多い。そして、その切り口は、大きく広がっている。ロシアと関わる間口が広がっているのは良いことである。

一方、ロシアからの日本への関心をもつ若い人もその関心分野は大きく変化している。従来のように日本語や日本文学や政治経済、伝統的な日本文化の関心から入ってくる人もいるが、アニメ、マンガ、Jポップ・・・といった興味から、日本に関心を持ってくる若者が急増している。彼らもソ連を知らない子供たちである。

何事も次の世代をにう若い人を取り組んでいくことが重要であると思う毎日である。一方、人生100年、折り返し地点に入りかかった筆者はまだまだこの国と付き合いながら頑張りたいとひそかに思っているのだが・・・。

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております